

# 都 鳥



第 8 号

2010年 11 月 版

題字「都鳥」は 伊藤幸子の筆

## 「沖縄パワー」をもらおう

--- 「都鳥」からのメッセージ ---

今年の夏は、猛暑でクーラーの生活となり、運動不足で体力の衰えを感じます。そんな中で、甲子園の高校野球や女子ゴルフにおける沖縄県人の活躍からパワーをもらいました。

春夏優勝校の興南高校の我喜屋監督は、1968年に沖縄勢初のベスト4入りを果たした当時の選手でキャプテンだったそうです。彼は、大昭和製紙に入社して実業団野球で活躍していました。2007年に母校から監督の要請があり、就任して4ヶ月で沖縄県代表校に仕立てました。その指導法はビジネス界からも注目されています。秘訣は、生徒の「生活習慣」から改めたこと、挨拶から始まり規則正しい生活を送ること、掃除をさせて「精神を律する」ことを徹底させたそうです。「ゴミを拾う生徒はバンドもうまい」と監督は云う。小さなことでも気にかけることが出来るようになり、生徒は「考えて野球をするようになった」と云う。

女子ゴルフの宮里藍も沖縄県出身である。今年の8月22日に全米女子ツアーで5勝目(通算20勝、海外6勝、国内14勝)をあげ、1987年に岡本綾子が成し遂げた海外4勝を抜く新記録を樹立しました。彼女は4歳からゴルフの指導を受け、ゴルフの強い東北高校に進学してプロになりました。ゴルフは精神的不安がスコアに敏感に影響するものですが、いつも感心するのはその落ち着いたプレー態度。持って生まれた素質の他に、ピア・ニールソン(スウェーデン)とリン・マリOTT(米)の2人から「メンタルコーチ」の指導を受けています。「目の前の一打に集中する」という宮里のプレースタイルは、両女史のアドバイスにより確立されたそうですが、これで再び世界ランキング1位に返り咲きました。

沖縄パワーをもらい、無事喜寿を過ごすことができ感謝の毎日です。戦後65年、未だに解決されない基地問題の重圧を受けながら頑張っている沖縄の人々、太平洋戦争での壮絶な沖縄戦で約85,000人の兵士と約100,000人の民間人が亡くなった尊い犠牲の上に、今の平和があることを忘れてはならないと思います。

さて、これからは「少欲・知足」で行こうと思っています。人生の3大栄養素は、「愛と笑いと感動」と云います。皆さん、お互いに身体に気をつけて、余生を元気に送りましょう。

松山敏彦 記

伊藤 敦子（内田）

桑名市長島町中町 67-2

### 「カミナリ」さま

平成22年9月23日、秋分の日、明け方より雷、ゴロゴロ、ピカピカと、私の苦手な朝、地区の中央霊場での彼岸供養を終えて家に帰ると、一本の電話が入り、ペンを取らせて頂くことになりました。

雷で先ず思い浮かぶことは私の誕生日です。当時はお産婆さんにお世話になる時代、7月27日、雷の鳴る中、隣の気丈なおばさんが、産婆さん呼びに走って下さったとのこと、夏が来て「カミナリ」さんが鳴ると、母からいつも聞かされたものでした。

昨今の異常気象の影響か、明け方突然の雷雨で、天国の母、そして隣のおばさんのことが思い出され、この方々に見守って頂いて今あることを思うと、今更のように、感謝で一杯になりました。

おかげさまで、今年は皆様と共に喜寿を迎えることができ、7月15日の同窓会では、心を籠めて手をかけて下さった記念品を頂き、ご一緒に楽しい一日を過ごさせて頂いて有難うございました。

現在私の日課の一部として、公民館活動の「ことぶき大学学習」や、福祉センターの「生きがい広場」などのプログラムがあり、ボケ防止に、健康維持に、楽しく参加させて頂いております。次回もまた元気でお会い出来ることを念じつつ、ご報告を終わります。

伊藤 幸子

東京都江戸川区中葛西 5-2-7-1005

### 武蔵野の風景（2）

小気味よく晴れ上がった高い空の下で、雑木林の様々な樹々が次々と紅葉を繰り広げる、初秋から晩秋にかけての目もあやな一時期こそ、まさに武蔵野の四季のクライマックスであった。

玉川上水の土手を埋める色とりどりの木の葉に混じって、ムラサキシキブの紫の実やサルトリイバラの紅い実が、花とはまた違った愛らしさで全体の風景を飾っていた。散歩の途次、キラキラ光って木の根元に散らばっている、小粒で甘いシバグリを拾うのも楽しかった。それぞれ微妙な色合いに染まった樹々が、打ち重なって何層も続いたたずまいのあまりの美しさに、昼間だけでは足りず、日が暮れかかってからもう一度、散歩に誘い出されたことも何度かあった。

その時はその時で、夕闇に包まれたブナの木濃い霜葉の塊が、ちょうど火鉢の炭火が灰の中で燠になったような、ほっこりとした暖かさを伝えてくるように感じられ、その不思議さがまた、何とも好ましいものに思われるのだった。

やがて葉をすっかり振るい落とし、山々が裸木の連なりと化する頃、北の山際の空が抜けるように青く、玉をのべたような美しさを湛えるようになる。その下の稲の刈り取られた後の田んぼで、空の青さを映したかのような青バト（街中でもよく見かけるおなじみのハトではない）が、5、6羽連れだって落ち穂を拾っていた明るい冬の日の光景....。

武蔵野の自然はこうして四季折々に、私の心に忘れ難い面影を刻みつけてくれたが、その慈愛に満ちた自然も、高度成長が始まった頃から急速に姿を消して行き、今では記憶の中でしか出会う事ができないのは、淋しい限りと言わずにはいられない。

石河 辰江（岡部）  
鈴鹿市長太新町 1-2-5

### ある夏の日

暑い暑い陽射しの中を、コンバインが見事に稲の刈り入れに動いている後から、白鷺と、黒いカラスが、忙しく落ち穂を啄む光景は、何とも自然の中の美しさと、可愛らしさに時を忘れさせるものです。

今年の夏の猛暑は、まだまだ終わりにありません。四季を愛する日本人にとって、特に喜寿を迎えました私共には、この暑さを乗り切ることが如何に大変だったことか.....。

其の中にあっても、お茶の稽古に通ってくれます若い方々から元気を頂きながら、やっと八月が終わりました。暑さ厳しいある一日、お弟子さんの一人が、夏休みで帰省している大学一年の息子さんを同伴され、「一度是非、お稽古の雰囲気を見せて頂きたい」というご挨拶でした。

若い青年がこのような気持でいて下さることはとても嬉しく、私も暑さを忘れて、一服のお茶を頂くまでに経なければならぬ諸々の手続きを通して、感謝と喜びを味わうべきこととお話したことでした。

彼の名前は正太郎君！

お点前をしっかりと拝見する姿、素

直な問答ができる正太郎君が、これを機に、更に日本の伝統文化に関心を持って下さることを願ってお別れした一日でした。 合掌

今村 素久  
四日市市大宮町 12-18

### 俳句の広場 2009年

初詣済ませて焚き火の輪に入る

氏神様の境内の焚き火の輪には近所の人  
がちらほら。先ずは年始のご挨拶。青竹  
に入れた燗酒も用意されてます。

花に雨風情と無情絢い交ぜに

月に群雲・花に風、風情でもあり、無情  
でもあり。

デジカメに行く春拾い集めけり

デジタルカメラは超便利、撮っては消し  
撮っては消し。俳句もこんな風にできれ  
ばね。

夏病棟ナースの声の良く透り

内視鏡手術の後の一泊入院。病棟の朝は  
ナースの活躍から始まります。

大西日古き簾を笑いけり

使い古しの大簾が今年も頑張ります。あ  
ちこちの裂け目から大西日が覗き込んで、  
せせら笑います。

絵になって句になりがたし秋景色

もう少し素養と学識があったらと思うよ  
うな見事な秋景色です。

後先の蜻蛉と行くや遍路道

今年は新知多八十八ヶ所。平地で田んぼ  
道が多く、楽しいお遍路道です。

秋の雨何度も初級韓国語

外国語習得の才能と根気に乏しく、毎年、  
新しいテキストを開いています。

受付のマスクの女性目で笑い

新型インフルエンザ予防の特大大マスク。  
表情は目元だけですが、女性はそれだけで充分。

柚子三つ浮かべ久々長湯かな

冬至の日には柚子を浮かべ、元を取るべく、柚子と遊びながらの長湯です。

**大野 由紗子**

知立市昭和 4-11-2

### 拡大写本ボランティアを卒業

私がボランティアに関わったのは1983年頃のように思います。当時はまだヘルパー制度の無い頃で、老人関係のボランティアグループは、人手が足りなくていろいろな事に首を突っ込んでいました。

1993年の正月明けに「拡大写本ボランティア」の講習を受けるよう依頼され、何の事かも解らずに講習を受け、抜けられなくなりました。当時は著作権問題等々あり、手書きで小学生から高校生までの教科書を障害者の視力に合わせて拡大していました。

脱字が1字有ってもそのページは最初から書き直さなければならない作業は、納期を気にしながら大変でしたが、1999年頃からワープロで拡大することが認められ、機械に転向することにしました。

弱視の子供達は視力の他に視野や色にも障害を持っている子が多く、図や絵などをどのようにレイアウトすれば見易いか、理解し易いかなど手探りで考えながら教科書を作っていくのが難題でもあり、またとても楽しいボランティアです。10mm角や14mm角の文字

で、併せて視野障害のある生徒さん達が希望の高校や大学に進学された時は、どうやって勉強をされたのかと、ご家族や本人の努力を思い我娘の合格時よりも何倍も胸が熱くなります。

そんな思い出を遺産として頂き、今回小学4年生からずっとお手伝いをさせて頂いた生徒さんが来春中学を卒業されるのを機会にいろいろ考え、我が身を思い、一緒に卒業させていただこうと思ったのです。何だか少々淋しいです。

**小川 恭平**

津市下弁財町津興 3015

### 珊瑚会とクラシックカー

今年の5月末に「賢島宝生苑」で開催した珊瑚会（3年5組クラス会）で、伊藤幸子さんから「都鳥」第7号を頂戴して、このようなエッセイ集のあることを知りました。伊藤さんから熱心に投稿を依頼されましたので、最近の自分の想いを掲載します。

珊瑚会は、九鬼館の北の端にあった教室で共に学んだ3年5組の卒業生の集まりです。担任は橋本禮一先生（別名ヨコイチさん）、文字通り名前の一を、横の一だと言いながら自己紹介した大変気難しい先生でしたが、陰では生徒思いの暖かい先生でした。

私達3年5組のクラスの生徒達は、不思議に気の合う仲間が多く、卒業後も恩師ヨコイチさんを担ぎ出しては、集まって駄弁っていました。

多くの仲間が定年を迎える頃より、毎年集まっては旧交を温めています。3年5組を文字って誰言うとなく「珊

瑚会」というクラス会になりました。西は山口県や東は東京などの遠くからも集まり、お互いに元気な顔を合わせるの、嬉しいことです。他のクラスの仲間からも「5組はええな」と羨ましがられています。

私達は昭和8年と9年生まれが殆どです。車で言えば1933年式と1934年式のオールドクラシックカーです。これまでは、世の為、人の為に一生懸命走り続けてきましたので、草臥れて少々ポンコツに近くなってきたかもしれません。交換できる部品も数少なくなりましたので、メンテナンスを怠らず、毎日無理の無いように動かすことが大切になってきました。

しかし、クラシックカーとして、手入れをしてピカピカに磨けば、最近の新車に無い何とも味のある車として充分お役に立ちますし、誇りを持って車を走らすことが出来ます。「27会」はクラシックカーの同好会のようなものです。これからも互いに精々磨いて、味のある車として集まりましょう。

春日 一彦

名古屋市西区西原町 63 番地

### ♪青い目をしたお人形～♪

童謡『青い眼の人形』（野口雨情作詞・本居長世作曲）で知られている「青い目の人形」が、三重県にも残されていることが調査・研究の結果解りました。これらは、1927年、アメリカ全土から「友情人形（Friendship Doll）」として1万2739体が日本に贈られたものです。

日本からも「答礼人形」として58体の市松人形をアメリカに贈ることになり、三重県からは「三重子」が送られました。

これは、人形を通して日米の交流を深め、平和と友情の精神を子どもたちに育てたいということからでした。

しかしその後、日米は戦争になり、これらの人形は「恐ろしい仮面の親善使」とされました。そのために、政府の指導により棄てられたり焼かれたりしたと言われます。三重県に贈られた194体の大部分もこの頃に処分されたようです。

そんな時代にあっても「人形に罪はない」としてこっそり人形を隠したりして守った人がいたことも判りました。その9体が三重県では確認されています。

その一つは、菰野町の千種国民学校に贈られた人形です。裁縫室に飾ってあった人形を校長が見つke、髪の毛や服を引きちぎって焼却炉に捨てました。それを伊藤という和裁の先生が、他の先生たちが帰ってから焼却炉から拾い上げ、必死になって家に持ち帰ったということです。

こうして60数年前に大人たちの為せる惨事に遭った人形が、今も無事に菰野町の伊藤さんのお宅に大切に保存されているそうです。

（昨年8月、津市の松菱デパートで展示・研究発表があった際に聞いたことです）



加藤 小夜子（秦）  
四日市市大矢知町 1117

### お菓子の歴史

先日二七会の際、伊藤幸子様よりお菓子の歴史をと依頼を受けましたので、私の知っている範囲で投稿させていただきます。

兵庫県豊岡市の山里に、氏神様として親しまれている中嶋神社があります。菓子にかかわる者には縁の深い祖神が祭られています。その祖神は私達が子供の頃よく口ずさんだ「田道間守命」（たじまもり）です。

1. かおりも高い たちばなを 積んだ  
お船が今帰る、 君の仰せをかしこ  
みて 万里の海をまっしぐら 今帰  
る 田道間守 田道間守
2. おおさぬ君のみささぎに 泣いて帰  
らぬまごころよ、 遠い国から積ん  
で来た 花たちばなの香とともに  
名はかおる 田道間守 田道間守

田道間守命は垂仁天皇の勅命を受け苦難の末、常世国から長寿の果実、橘の実を持ち帰りました。その忠誠の故に菓祖として祭られたのです。

果実をもたらしたのになぜ菓祖かと言えば、平安時代に唐菓子が伝えられるまでは果実が菓子の代用だったからです。その後果実は水菓子と呼ばれるようになります。

こうして菓子は田道間守の時代から形を変え、現代では四季折々の和菓子として私達の心に影響を与えてくれています。日本には美しい四季があり、日本の食文化は四季を通じて自然の風物から、春は桜、夏は清流、秋は紅葉、冬は雪と、一年中、

視覚、味覚、嗅覚、触覚等を目覚めさせる総合芸術と思います。また機会をみて季節のお菓手に触れさせて頂きたいと思います。

木村 達也  
横浜市鶴見区東寺尾 5-5-43-203

### ブリンディシからギリシャへ

日本では休日が未だ日曜日のみのものであったと記憶するが、昭和44年当時欧米は既に土日が休みであった。

イタリア南部の町での仕事はそんな休日にも助けられて思い出が多い。イタリア半島長靴の踵最南端のサンタマリア・ディ・レウカをレンタカーで一周したり、カステッラーナという町にある大きな鍾乳洞を見に行ったりと、仕事は忙しかったけれども気分転換も上手く出来た。

ある時、現地の祝日も重なり4日間の休日に恵まれたので船でギリシャへ出かける事にした。乗船したのはスパルタカスの反乱で良く知られたブリンディシの港である。

一等船室を取っていたので待遇は抜群、四六時中ボーイがドアの外で待機している。そんな生活などおよそ縁遠い者にとっては却って落ち着かないものである。部屋を出て後部デッキにあるプール近くで見晴らしの良い所を選んで立ち止まると、後ろから椅子を捧げ持って来たボーイがさっと椅子を私の後ろへ置くのである。オドオドしてはならない。悠然とボーイを待たせて家族へ手紙を書いた。

故ケネディー米大統領夫人であったジャクリーン婦人と結婚したギリシャの大富豪アリストテレス・ソクラテ



ス・オナシス氏が所有する島を見ながら船はギリシャへ向かって行った。美しい景色は今も記憶に残っている。

## 国保 元愷

東京都世田谷区玉川 3-1-18-908

### 懸念される日本の没落

最近の日本の政治家には経済の分かる人材が少なく、誰が首相をやっても1年持たない。われわれが高校を卒業した'52年に日本のGDPは5兆円だったが、現在500兆円に成長した。池田、福田、宮沢などの経済通の首相の功績だ。しかし日本に資源が無いことに変わりは無い。ガソリンも工業原料も、食料の6割も、衣類、雑貨などの消費財も輸入する。この輸入に毎年30兆円前後を外国に払い、日本人の豊かな生活は成り立っている。

輸入だけでは払う外貨が無くなるから製造業が技術を磨き、自動車や電子部品を輸出して50兆円近い貿易黒字を稼ぐ。技術人材が日本の豊かさの源泉である。製造業が国際競争力を持つ間は国全体で整合が取れているが、昨今中国やインドのように日本の1/20から1/100の賃金の国がものづくりの腕を上げて来ると、日本製造業も人手のかかる仕事は海外に移す。国内雇用は減り失業者360万人、失業率5%は増え、製造業の貿易黒字は減る。昔は雇用が最優先で正規雇用した企業には補助金、ハローワーク職員を倍増と言うがこれでは雇用は増えない。企業は国際競争力を落とす採用は絶対にしない。日本経済の基盤構造についての認識を欠いた経済音痴の発想である。

企業は海外生産を増やすと共に、国

内でやらざるを得ない仕事は賃金が高いから自動化する。60年前、世界初のコンピュータは1ビットの機能に2本の真空管、2千円を要した。今のICは10億ビットで200円だから1ビットの価格は1/100億に下がった。この技術で日本中の駅の改札はすべてロボット化され、改札掛のような単純労働の雇用の場は無くなっていく。一方でロボットを開発、製造する高いレベルの技術者、技能者は足りない。

現在日本に豊かな生活、高い賃金に見合う能力の人材、特に技術系人材は激減している。大学の理工系志望者は全体の18%迄下がった。高賃金で資源の無い日本では、大半の人材が高い能力を持つことが豊かさの維持に不可欠であり、それに向けた教育システム再生が真の経済対策である。失敗すれば賃金、生活レベルを大幅に下げられない。経済音痴で選挙対策だけの今度の首相は1年持つだろうか。

## 後藤 隆三

川崎市多摩区三田 3-1-2-6-206

### 海と私（6）

#### ある映画のラストシーン

映画のドラマは所詮作り話です。観る方もうまくだまされて映画を楽しむものだと思っています。それでもドラマを、海の専門バカが観ると、腑に落ちないところがままあるのです。

私を取り上げるイタリア映画「太陽がいっぱい」(アランドロン主演)は観た方も多いと思います。映画の中で、トム(アランドロン)は友人フィリップを彼のヨットの上で殺してキャンパスで包み、ロープでぐるぐる巻きにし

て海へ投棄しました。

その後、トムはフィリップのお金と恋人のマルジュを手に入れます。更にヨットも売ることにして業者に依頼します。買主が現れ、ヨットの船体を調べるために上架することになります。ゆっくりと上架されるヨットのスクリューにからだロープの先にキャンバスに包まれたフィリップの死体が引揚げられてきます。

このどんでん返しの結末はスリルと驚きがあって面白いのですが、私が観たところでは、あれだけロープが絡んだスクリューは負荷が大きくうまく回りません。エンジンでヨットは進まないでしょうでしょう。帆走しても死体を曳いているのでヨットは速力が出ません。いずれにせよ操船者は異状に気がつくはずです。

こんなしらけた観方をしていますと面白くないですね。年を重ねたこのごろでは、楽しくだまされて映画を観るようにしています。

小島 紀子 (伍島)

小平市鈴木町 2-865

### 身辺雑句

思わせぶりの言葉残した夜朧  
おぼろ闇おぼろの影が遠くなる  
ぼう~とした春の夜の幻影です。

風炉びらき袱紗捌きに母をみる  
新緑の映え照り写すのんこうの碗  
喜寿迎へ来し方おりふし松風を聴く  
炭の匂い、湯の沸る音に、父がいて兄も  
いた当たり前のあの頃の生家の茶室が甦  
ります。

暑気に倦み苛立ちけだるく琴に向く

琴の音と競い合うかに蝉時雨  
“遠砧”のしらべ束の間暑気はらふ  
戦争の終結と同時に琴の稽古を始めまし  
た。

夏まん中深紅のダリア陽に白く  
ラッパ飲みためらいつつも猛暑の日  
暑い夏でした。

高層階掌にのりそうな花火みる  
多摩川に祭りのあとの影を曳く  
孫娘の 42F のマンションは、眩暈が起り  
そうです。

はにかんでシャトー・マルゴの色に  
酔ふ  
フレンチレストランのシェフの大袈裟な  
出迎えに照れました。

<sup>たかぶ</sup>  
昂る気衣のきしみも単衣帯  
亡き人の筆の名残の秋茜  
亡夫の原画展が銀座の画廊で開かれました。

谷奥 由紀子 (谷奥)

大阪市住吉区我孫子 2-11-4

### 四国八十八ヶ所霊場巡り

春は桜吹雪の中、秋は真っ赤に染まる紅葉の下、最近私の心は、知らず知らずに、四国に向かってしまいます。

元気いっぱいの木々が茂る山々にある八十八ヶ寺 + 別格二十ヶ寺、それぞれ違った風情を漂わせて、ひっそりと変わらずに私を迎えてくれます。

最初は、いつまでも心の中に居座って離れない、亡くした家族達の弔いに.....と出掛けた巡礼旅だったのに、もう一回、もう一回と、目的もなく出掛けてしまうのが不思議です。

世界遺産に申請中の四国八十八ヶ寺、いろんな人達が巡礼にやって来ます。

体の調子が悪くて平癒祈願に...、脇目もふらずに重いリュックを背負って、スタスタ坂道を登る若者達、夫婦睦まじくのんびりの微笑ましい老人達、団体バスでザアアっとやって来て、大賑わいで参って、サアアっと帰る人達、お位牌を胸に涙でお参りの人もいます。一度体験してみようと言う人もいれば、100回 200回、中には300回台の人もいます。

不思議な魅力がある四国の山中のお寺、特に信仰心があるわけでもない私なのに、痛い足を引きずりながらこれからも、ごちゃごちゃした都会から脱出したくて出掛けて行くことになるでしょう。遍路タクシーで雨の日体調の良くない日はお休みの、のんびり一人旅です。

## 西脇 基夫

藤沢市湘南台 6-55-1

### The Pacific (太平洋戦争)

今年4月、2週間アメリカに行ってきました。アメリカでは The Pacific というテレビ番組がたいそうな人気番組になっていました。日曜日の夜9時から1時間放送される。内容は太平洋戦争を回顧して開戦から終戦までの激戦の様子を10週にわたって紹介する番組であった。かつての戦争をアメリカ側から、この番組を観ました。

私がみた番組は“第5週：ペリリュー島の戦い(1944年9月)”でした。輸送船から水陸艇に乗って上陸、敵弾の降る海岸を恐怖で震えながら匍匐して前進、少しずつ敵を追い込んでいくのだが、敵弾や地雷に触れて死んでいく仲間や、人間と人間が殺しあう殺り

くで、多くの兵士が発狂したり、精神的におかしくなる様子を描いていました。臨場感ある戦闘場面は、性能で勝るアメリカの機銃掃射で日本兵がばたばたと倒れ、夜が明けて無数に折り重なって死んでいる姿をみると、こんな戦争二度と起こしてはならぬと思う。

結局、番組は勝ち戦の回顧録であった。しかし一瞬に30万人の命を奪った広島・長崎の原爆投下をこの番組がどう扱うか極めて関心がある。

この番組、日本でも7月25日(日)から WOWOW で放送されました。番組は沖縄戦でおわり、終戦に至る原爆投下には触れることなく終わっていました。最終放送は、心に深い傷を負って社会復帰ができなくなった多くのアメリカ兵士の姿を紹介していました。

日米双方、戦争は、国が善良な国民に押付ける犯罪であることを思い知らされた番組でした。

## 服部 幸市

四日市市諏訪町 12-5

### 我が家の歴史(2)

--- 美術との縁 ---

私の知恵袋は、宝ビル 5F の近代社会研究所の資料として集めた千冊以上の、明治政府発足後の人物の近代誌、銀行誌、有名会社誌等、発達時代の先人が歩んだ血の出るような刻苦勉励の歴史書です。書架の一つに、富田中学2年生の時の美術部の作品である手作りの本棚があります。

美術部顧問の岡田喜雄先生は東京芸術大学出身で、デッサンかコンテのご教授を願うつもりが、入部したとたん

を持参され、同級の野崎伸也君と私に、「これを切れるまで研ぎなさい」と言われました。毎日毎日約3ヶ月間かけてやっと立派な鑿を研ぎ上げ、その道具を使って製作した記念の書棚なのです。

私が、喜寿を迎えるこの歳まで、板子一枚下は奈落の底という商業界の荒波の中を泳ぎ抜きながら、人生の希望と心の豊かさを追求することを忘れずにすんだのは、表面は厳格でありながら、実に温かく深い心を奥底に秘めておられたこの岡田先生のご指導の下に、中学時代を過ごすことが出来たからだと思っています。

岡田先生のご薫陶の記念であるこの書架の中から先人の書、蒐集された浮世絵等を選び出し、日本画家や世界の画家のリトグラフを集める傍ら、茶道関係の工芸品の研究もしました。そして、東京、大阪、名古屋はもとより、ヨーロッパの国々にまで足を伸ばして集めた40年間の蒐集品を、古希の記念として宝ビルの4Fに、宝美術館の形で展観することが出来たのでした。

## 濱口 博彦

横浜市旭区希望が丘 75-4

### ボタニカル・アート 雑感

僕は、現役時代の職業に関連して、植物（農作物や雑草）とは多少の付き合いがありました。自分で絵を描くことはほとんどありませんでした。会社勤めを68歳で卒業し、時間的に余裕が出来たので、古希を迎えたのを機に週一回のボタニカルアートクラスを取ることにしました。早いものでもう6年半、だいたい月1枚のペースで植物

画を仕上げています。

さて植物画ですが、これ、実は大変いい加減な絵だと僕は思っています。例えば人物デッサンの場合は、目鼻の大きさや位置、首や手足の太さなどが少しでも狂うと、モデルとは見ても似つかぬ絵になってしまいます。しかし植物画の場合は、モデルとした植物に特有の形質から逸脱しない限り、花や葉の大きさや、時には数や形、角度・比率など、いい加減でも良いのです。例えばこのユリですが、葉は互生、花柄は葉の付け根から出る、花卉は6枚、めしべ1本は6本のおしべより長い、などが忠実に守られている限り、花や葉の数やそれらの相対的位置が異なっても合格です。こうして描かれた絵が、単なる図としてしか見られないか、アートとして鑑賞に耐えられるかはまた別の問題です。

僕は、なんとかアートに近づけたいと努力はしていますが、植物を前に置いて、鉛筆を動かしたり、絵具を塗ったりしている時間は一切の雑念がなく、そのことに熱中できるかけがえのない時間です。1枚の絵を仕上げた時の満足感は、また格別なものがあります。



以前のように刺激を求めて活発に行動できなくなりつつある今は、この古希の手習いの植物画を、出来る間は続けて行きたいと思っています。

中村 千鶴子（望月）

東京都目黒区目黒 3-8-10-906

### 孫と一緒に日々晴朗

塾かと思わせる自転車6台、大3台、小3台の見事な光景を通り過ぎ玄関へ。やはり塾並みの靴の数。3階の子供専用の部屋へ手すりにしがみついて昇ると、次男9歳、三男8歳の机が横並びに、長男12歳は一人陣取り家庭科の縫い物を、四男4歳はゲームに余念なしの孫4人男の城。悔しいほど整理されていて、うっかりミニカーとレゴを一緒に引き出しに入れそうになったら、ばあちゃん片付ける時はきちんと分けて入れてねと4歳児。プレゼントされたプラモデルのロボット組み立て、遊んだ後はまた分解し、きちんと箱に整理して棚へと。

お風呂の掃除当番も決まっていて、用意が出来るが一番に下3人が一緒に。長男12歳はさすがに一人ですが、親が入る時分には、しっかり遊んだ後の濁り湯の感だとか。とは言いながらそれなりに関わり合って楽しくやっているので助かっている。実にうまい育ち方をしています。

先日、PTA会長が突然の欠席で代役を頼まれ、どうしようと悩んでいたら、9歳児曰く「自信を持ってやれば大丈夫だよ」、「深呼吸をしてすれば」は8歳児、「やれば終わるよ」は12歳児夫々のアドバイス。なるほどそうだねと、その一件は落着。

来春はランドセルが4色目。3人が野球をやっているので運動靴2万円、ミット4万円を大出費中。今後はもっと手応えあることになるでしょう。天気調べも8歳の夏休み帳を利用して、9歳、12歳も完璧な仕上がりになりました。

ただ今傍で9歳が音読の勉強中、「整理の分類について」。今流行の断捨離を心に念じながら、孫自慢もここまでで。因に私は子供3人孫9人、そのうち男児7人女児2人の恵まれたおばばです。

水谷 ひで（田中）

四日市市中川原 1-10-21

### 信濃路を訪ねて

三重県退職教職員の会で参加者を募って親睦の旅をしています。今回は行程に松代大本営跡と無言館が入っていたのでぜひ訪ねてみたいと参加しました。戦争の愚かさや悲惨さを物語る二つの対照的な施設だと思ったのでした。

この旅では他のツアーではあまり訪れない箇所もいくつか巡りました。岩波文庫の『聞けわだつみの声』の冒頭に掲げられている遺書、所感を書き残して沖縄の海に逝った上原良司のモニュメントが、生誕地池田町の有志の方々によって建立されていました。

松代からほど近い清野の里の大島博光記念館では、アラゴンの『ストラスブール大学の歌』に出会いました。若い頃、教員になりたての頃でしたか、あの詩の「教えるとは希望を語ること、学ぶとは真実を胸に刻むこと」の1節に深く感動したことを思い出しました。

鬼無里のふるさと資料館では、村が栄えていた頃祭礼に曳き出された屋台

が展示されていました。土地の宮大工の作でケヤキの木地を生かした『一本彫り』による透かし彫りの唐獅子や牡丹等が、屋台の天井や外側に施されたり、可愛いひよこのからくりが作られていたり見事なものでした。同時に展示されている往時を偲ぶ農村の生活の様子も興味深いものでした。

一緒に参加した元同僚の方に、私が未だ30歳の頃ある会議で、50歳ぐらいの男性教員が「とにかく女の先生は……」と女性蔑視の発言をしたのに対して、「今の発言は撤回して下さい」と強く反論したことがあったと言われました。当時の高校の職員室は男性社会だったので、きっと少し気負っていたであろう若き日の自分を垣間みた想いになるという一コマもありました。

## 武藤 康正

四日市市西新地 13-8

### 私とゴルフ

ゴルフを始めて何年になるだろうか。本格的にやりだしたのは市立四日市病院に赴任（S46年）してからだから、やがて40年になるだろうか。今回はゴルフという競技と、高校時代に私がやっていたバレーボール競技との取り組み方の違いについて、四高当時の思い出と共に書いてみる。我々が高校時代のバレーは9人制で、前・中・後衛に分かれ役割分担があった。

私は背丈が高くないので後衛でもっぱら相手方から打ち込んでくるボールを拾い上げ、また味方が受け損じコート外に流れたボールを追いかけ元に戻す役割であった。東洋の魔

女と言われた大松監督率いる日本チームは6人制で、回転レシーブが一世を風靡したのはその後のことである。私達はとことんファイト、気合をもって最後まで必死にボールを追いかけ、飛び込んででもボールを上げることに目標があった。後は誰かがカバーする。練習の時はその点につき、先輩から徹底的にしごかれた。

当初、私は合理的な考えで、とても取れそうもない所に上がったボールは2,3歩追ってすぐ追うのをやめてしまっていた。すると、先輩からひどく怒鳴られたものである。最後まで気迫をもってボールを追いかける「ファイト」が必要であることを自然に身につけさせられた。

このことは、その後の人生においてマイナスではなかったと思っているが、ゴルフに関してはいささか事情が異なっている。冷静な判断、沈着なプレーが要求される。従って、ゴルフを始めた当初は高校時代に培われた「ファイト」はマイナスに働いた。今はどうか???

## 吉川 春海

三重郡菰野町大羽根園青葉町 12-10

### 「梟」に囲まれて

“不苦労”、“富来ろう”等の字が当てられ、最近はどここの観光地でも置物を始め、様々な品を見かけるようになりました。

私も以前は姿形も見映えもせず、関心がなかったのですが、20年程前イタリアへ旅行した折、たまたまホテル近くの店で、本を小脇に抱えブレザー姿のいかにも学者風の雰囲気陶製の

梟の人形が目についたのです。

梟は、古代ギリシャの頃から、知恵の神、または魔除けや、幸運を呼ぶ鳥として崇められています。縁起を担ぐわけでもありませんが、スタイルが珍しかったのでつい買い求め、それ以来国の内外を問わず行く先々で買い求めるようになりました。

陶、ガラス、石、木彫等大小の置物、小物、絵画、アクセサリ等、最近飾る場所にも収納場所にも苦勞し、どこへ出掛けてもなるべく買い控えるようにしているのですが、それでも私が集めていることを知っているお友達がお土産に下さったりして増える一方で、嬉しい悲鳴を上げている今日この頃です。

そんな折、東京豊島区の孝行娘のミミズク伝説で知られる鬼子母神のすぐ傍の南池袋小学校内に、「豊島区みみずく資料館」が開設されていることを知りました。世界各国の珍しいコレクションが見られるそうなので、ぜひ一度訪れたいと思っています。

**渡邊 喜代子**（山下）  
三重郡川越町高松 155-1

### 地中海に浮かぶマルタ島

2009年9月、大学一年生になった孫娘と、マルタ島とローマへ二人でツアーに参加しました。中部国際空港より出発して、台北、香港と乗り継ぎしてローマへ。ここでは5時間も時間があり、朝食をとり、一服してマルタ空港へ着いたのは、日本を出発してから丸一日後で、老体にはかなりの負担でした。

マルタは地中海のほぼ中心に位置す

る文明の交差点として、数々の歴史ドラマを作ってきました。16世紀にはそれまで転々と本拠地を移してきた聖ヨハネ騎士団が居を定め、オスマントルコを迎え撃つ為に島全体を城塞化したこと、その後英国統治になり、その間、二度の世界大戦の重要な前線基地の一つになったことは、この島に大きな影を落としています。

世界遺産ヴァレッタは、マルタストーンの柔らかなハニーカラーで統一して建てられているので、大聖堂、美術館、騎士団長宮殿、民家等、すべてが中世の面影を偲ばせます。海岸線の景観も素晴らしく、青の洞門で小舟に乗って、木の葉のように揺られながら眺めた海の色は、ブルーエメラルド色に輝いて忘れられぬ美しさでした。

ゴゾ島では、私の好きなレースのお店があり、エリザベス女王もご来店になられたとか、マルタ独特のピロウレースが気に入って買ってしまいました、大満足！金銀線細工のガラス工芸品もあり、買い物好きの私としてはもうわくわくでした。

イギリス軍墓地の一角に、日本海軍の墓地が大正時代に建てられていて、昭和天皇も皇太子時代に参拝されたそうです。私も心から冥福を祈りました。こうして、孫娘と楽しい観光ができたことを感謝しております。

### お詫び

前号、都鳥7号で伊藤喜久雄さんの随筆「カメラと私」に掲載された写真の一つ「朝明けのマッターホルン」は「朝明けのドーム峰」が正しい名称です。訂正いたします。

最近、幼稚園の子供でもコンピュータという用語を知っています。皆さんも何の疑問も感じないで会話のなかで使っていると思う。多分、コンピュータを知らなくても、身の回りにある便利な道具類から概念的に理解しているからであろう。でも「コンピュータって、何ですか」と聞かれると答えられる人は少ない。そんな難しい話も、コンピュータの歴史を振り返ってみると、いくらか理解ができるかも知れない。

米国でコンピュータが必要となる背景に国勢調査がありました。10年に一度行なう国勢調査の集計に9年もかかっていました。1890年の国勢調査は、数学者のホリレス博士が発明したパンチカード式統計機を利用して、たった3年で終わることができました。

パンチカードは、はがき大の用紙に男女とか、年齢とか必要な項目が印刷されています。該当する項目を鉛筆で黒く塗りつぶし、その部分をパンチして穴を開け、このカードに光をあてて、穴の開いた部分を光学的に読み取り、集計しようとするものです。

この計算機は真空管を使っていました。真空管は電灯の電球と同じで、ヒータを使っています。ご存知のように電球の寿命はせいぜい1年で切れてしまいます。仮に365本の真空管を使って計算機をつくると、毎日1本の割合で真空管が故障するので、何千本も真空管を使う計算機のメンテナンスが大変でした。

1948年に、米国のベル研究所でトランジスタが発明されました。これは従来の真空管に代わるものですが、ヒータがありません。従って寿命は半永久です。

このトランジスタは、その後どんどん進歩して、材料がゲマニウムからシリコンに代わって信頼性が増し、最近では1センチ角の小さいシリコンの結晶に何千万個というトランジスタが詰め込まれた集積回路(IC)が出てきました。

この技術がコンピュータに採用され、真空管に代わる電子計算機が開発されました。1964年にIBMシステム360が登場しました。東京オリンピックで大活躍しました。その後、日本の銀行や製造業に導入されました。

このコンピュータを現在のパソコンと比較すると、構造的にはまったく同じです。キーボード、モニター、演算装置、記録装置の四つの部分で構成されています。キーボードはパンチカードに相当する部分です。鉛筆で黒く塗って穴を開ける代わりに、必要な項目、例えば男女別とか人数などの項目をキーボードから直接入力します。演算装置で計算して、集計した結果をモニターに表示し、記録装置に記録します。

当時の記録装置はテープレコーダを使っていました。演算装置も記録装置も家庭で使う大型冷蔵庫くらいの大きさがあり、これをエアコン付の特別室に設置して、キーボードとモニターだけを事務室において、遠隔操作で、みんなで共同利用していました。

そんな大掛かりな装置が今はすっかり小型となり、各自が自分のパソコンを持つ時代になりました。当時のシステム360は一台1億円～3億円の値段でした。今は、それよりも数十倍も性能のよいパソコンが1台10万円～30万円で買える時代になりました。



## 投稿のお願い

皆さんからの自由な投稿を歓迎します。日頃の生活を中心に、思い出、将来の計画、趣味、なんでも結構です。本文の字数で600字を超えない範囲で投稿してください。

発行は、春秋の年二回、5月と11月に発行します。締切りは、それぞれ3月末日、9月末日としますが、常時受け付けていますから、いつでも気軽に下記へお送り下さい。

橋本健二 〒510-1322 三重郡菰野町田口新田 152-2 電話;090-3480-5476  
Eメール; arm.is.c@poem.ocn.ne.jp FAX; 059-353-8522

松山敏彦 〒510-0956 四日市市貝家町 47 電話/FAX; 059-321-0742  
Eメール; t.matuyama@sky.plala.or.jp

水谷ひで 〒510-0833 四日市市中川原 1-10-21 電話/FAX; 059-352-7268  
Eメール; m-masahi@cty-net.ne.jp

伊藤幸子 〒134-0083 江戸川区中葛西 5-2-7-1005  
Eメール; itohs@tbd.t-com.ne.jp 電話/FAX; 03-3675-5982

西脇基夫 〒252-0804 藤沢市湘南台 6-55-1 電話/FAX; 0466-44-0396  
Eメール; nishiwaki@ruby.plala.or.jp

原稿は、手書きでも結構です。電子メールであれば編集の手間がかからなくて助かります。フォント種類、大きさは問いません。自由なスタイルでお書きください。

今までに発行しました都鳥各号はまた、四日市高等学校の図書室、および四日市高等学校同窓会館の書棚にも置いてあります。

都鳥は、皆さまからの基金で支えられています。費用の一部に一口500円以上のご支援を頂けると有難く存じます。

ゆうちょ銀行 記号 10250 番号 79812901 都鳥の会

この冊子「都鳥」は、三重県立四日市  
高等学校、昭和27年（1952）卒  
業生で作るエッセイ集です。平成19  
年（卒業後55年）に同好者が集まり  
創刊しました。

印刷・出版責任者：西脇基夫